

幼児理解の理論と方法

(2 単位)

専門 > 教育学部 > 基礎理解に関する科目等

3 年、4 年 通年(前→後)
週間授業

宮本 雄太 (yuta-mt@u-fukui.ac.jp、0776-27-8789 (内線 : 2541)、教育学系 1 号館 6 階、実務経験 : 学校等、官公庁)
大西 将史 (mohnishi@u-fukui.ac.jp)
河村 佳保里
小林 真由美
笹原 未来 (sasahara@u-fukui.ac.jp、0776-27-9934(2550)、連合教職開発本部 2 階、火曜 4 限)
鈴木 静香
廣澤 愛子 (aiko-h@g.u-fukui.ac.jp)

■ナンバリングコード

05-TTM-209 教育学部 学校教育課程 / 道徳, 総合学習, 生徒指導, 教育相談 [2 年次レベル]

■授業概要

幼児の遊びや生活の実態を通して、「一人一人の幼児を理解すること」の意義や重要性を知る。また、幼児期の遊びや生活の記録をもとに個人での読み取りや対話を通して、幼児の発達や個と集団の関係、家庭との連携を含めて考えることで、幼児理解の理論や方法を学ぶ。

■到達目標

1. 幼児の遊びや生活の実態に即した幼児理解の意義を考える
2. 幼児理解に基づいた発達、学び、関係性のあり方を捉える方法について理解する
3. 幼児の発達や発達過程で生じるつまずきや保護者への対応を考えられるようにする

■授業内容

第 1 回 : オリエンテーション (幼児理解に係わる知識と方法の概説)
第 2 回 : 講義・グループ討議 (幼児理解と教育相談)
第 3 回 : 子どもへの支援活動/記録の検討① (幼少連携、幼児の発達、つまずきへの支援)
第 4 回 : 講義・グループ討議 (幼児の発達について[発達過程、観察方法、つまずきの原因と対応])
第 5 回 : 講義・グループ討議 (特別支援教育と幼児理解[幼児のつまずき、保護者との係わり])
第 6 回 : 子どもへの支援活動/記録の検討② (発達支援、教師の基礎的態度の実践)
第 7 回 : 子どもへの支援活動/記録の検討③ (発達障害と支援の実践、つまずきのアセスメントと支援の実践)
第 8 回 : 子どもへの支援活動/記録の検討④ (個と集団の関係)
第 9 回 : 講義・グループ討議 (幼児期の発達と幼小連携[幼児理解の意義、発達の原理、教師の態度])
第 10 回 : 講義・グループ討議 (保護者との係わり[保護者への支援、係わりのポイント])
第 11 回 : 実践報告会① (幼児の発達、つまずきへの支援の実践)
第 12 回 : 実践報告会② (発達支援、教師の基礎的態度の実践)
第 13 回 : 実践報告会③ (発達のアセスメントと支援の実践)
第 14 回 : 実践報告会④ (親との連携の実践)
第 15 回 : まとめ (幼児期から児童期への移行)

■準備学習 (予習・復習) 等

【予習】

・毎回の活動終了後に、活動を振り返り、活動記録をつける

【復習】

・活動記録を再度吟味し直し、次の活動の展望をつかむ

■授業形式

【授業形式】

演習

実習と講義、グループディスカッションや、事例の検討など、複数の組み合わせからなる。

■成績評価の方法

園/校支援ボランティア活動 (40%)

実践記録の提出 (30%)

報告会などでの発表(30%)

■教科書・参考書等

よくわかる乳幼児心理学 (ミネルヴァ書房、2008)

■その他注意事項等

附属幼稚園等を中心に観察があります。

■キーワード

幼児 発達 事例研究 実践記録 語りと傾聴

■アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング科目

①事例記録の検討・交流

②附属園での保育参加

③収集した事例記録の検討・交流

■授業形態

対面授業

■SDGs

4.質の高い教育をみんなに